



日本共産党
菅原 義信 議員

想定外といわれる災害に対して

問 最近の自然災害はいずれも想定外だと言われるが、昨今の災害や過去の経験で得た知見を細大漏らさず教訓とすべき。その点で鯖江市が進めている「田んぼダム」は整備を拡大することと有効性を高めていく必要がある。また、排水路の整備が進んで圃場排水の河川への流下が早まり、今まで通りの排水ポンプの稼働では間に合わなくなっているところは運転マニュアルを見直すべき。大きくは日野川の河床しゅんせつを急ぐことと広野ダム、榎谷ダムの事前放流による貯水量拡大を図ることも県に要請すべき。

答 ことしの調査によれば整備された田んぼダムで6割の調整板が封入されている。ポンプ場の管理マニュアルは検討する。日野川については、河川の断面確保のため、現在、50年に1度の水害に耐えうる改修を行っているが、将来計画として100年に1度の水害に耐えうる整備を予定している。浅水川・鞍谷川については、河床を掘り下げ、将来的には50年規模での接続が可能となる。ダムの調整容量の変更は国が九頭竜川水系で行うことになっているが、これを参考に県も検討していくことと聞いている。



市政同志会
佐々木 一弥 議員

持続可能な財政運営について

問 市債残高について
① 残高の推移は
② 元気さばえっ子・ゆめみらい債の発行について

獣害対策について

問 対策強化について
① 市内の獣害対策への取組状況は
② さばえのけものアカデミーの受講現状は
③ 受講による対策効果は

問 自主財源確保について
① 推移について
② 拡大に向けての今後の取組は

問 クマ対策強化について
① クマ出現時の行政の対応は
② 住民への啓発は
③ 市が管理する公園管理について

問 Society (ソサエティ) 5.0の実現とは



市民創世会
木村 愛子 議員

「国連SDGs女性資料館」とは

問 誘致の見通しは。
答市長 SDGsの鯖江コンセプトモデル、グローバルという商標登録をしているが、片方のレンズで世界を、片方のレンズで地域で考え行動する。ブリッジが女性のエンパワーメントになっている。

化、工房の見える化やショップ併設が始まっている。市として側面支援をして、民間力で通年型の産業観光の実現と産地の強みを生かした雇用の創出も目指したい。

これらの評価も受け、国連の友APと共同で、女性資料館設立と国際会議の開催の提言を受け、動き出している。

インバウンドの需要にも対応できるよう5市町のネットワークを強化したい。

問 産業観光や丹南広域の連携について、「RENEW」の市の考えは。

そのほかの質問

- 強靱かつ環境に優しいまちづくり。
- 児童発達支援センターについて。

答 「RENEW」をきっかけに、参加企業間の新たなネットワークも生まれ、メーカー自らも売れるものを作って売る動きも活発

